

<はじめに>

私は電機メーカーに勤める 40 代の会社員で、新規事業立上げのプロジェクトリーダーや技術コンサルタントとして活動しております。将来、企業内診断士を経てフリーランス活動を目指したく、5 年前に診断士受験を決意しました。2 次試験は、独学で 2 回、大手 T 社通信で 2 回、最後に MMC 通学で 1 回と、合計 5 回の受験経験があります。振り返ってみると、4 回目までは武器を持たずにその場しのぎに素手で戦い、最後に MMC で武器を手に入れ戦うことができたイメージを持っております。

<4 回目までの受験>

これまで資格検定を 30 ほど取得していたため、ペーパー試験は得意であり、独学スタイルで学習を開始しました。独学での最初の 2 回は、過去問を暗記する試験テクニックに頼ったスタイルで臨みましたが、1 次試験と事例 IV 以外は解法をつかむことができず、その場しのぎの対応になっておりました。その後の 2 回も同様、大手 T 社通信で添削を受けましたが、大手の解答は、大勢の受講生の模範となるような綺麗で理想的な文章のように感じ、なぜそのような文章を構成することができるのかを理解することができませんでした。結局、何をどこまで実行すれば合格地点に辿り着くのか（ゴール地点）が見えておりませんでした。

<MMC を選んだ理由>

そこで、自分が受験した年の各社の過去問を見比べ、自分が書けそうで納得感のある模範解答をピックアップするところから始めました。上記の理由で大手 (T、L、O 社) の解答は候補から外し、2 次専門の数社から、MMC、A、TB 社の 3 社にアプローチしました。残念なことに MMC の説明会は終わっていましたが、個別に徳川先生のお時間をいただけることになりました。1 時間以上カフェで相談させていただき、これまでの私の疑問や不安をすべて明快にご回答いただき、「合格地点とその達成手段」を具体的にイメージすることができたため、納得して MMC を選ぶことができました。これまで独学スタイルで自分なりの型が決まっていたのですが、自分をリセットして、疑うことなく安心して MMC に着いていこうと決めました。

<MMC での学習スタイル>

これまで効率性を考え独学や通信で進めてきましたが、「講義で直接話せる情報もあるから絶対通学がよい」といった徳川先生のアドバイスのもと、1 月から 1 次試験前の 6 月まで日曜通学コースに通いました。

講義が一番後ろの席で聞くようにしました。理由は、授業中に差されなくなかったこともありますが、答練後の休み時間に行われる、先生方と各受講生との面接の話を（そっと）横で聞くことができたためです。私と同じ受講生が何をどこまでの粒度で考え、また先生方のアドバイスがいつも同じであることなどが分かりました。

自宅学習では、平日は一次試験を、土曜日は MMC の準備にあてました。まず、MMC で配布されたキーワード表をワード化し、あとは毎回の講義を通して自分なりに表をブラッシュアップしていき、最終的には事例ごとに A4 一枚（ファイナルペーパー、以降 FP）に削ぎ落していきました。1 次試験が終わるまでは、この FP の精査と、前回の答練の復習をする程度の学習量でした。答練においても、ムリして高得点を狙うことなく、習った武器だけで解くことにして、武器が使えないものは出来なくて当然と思ひこみ、作業の標準化や型の定型化を実践しました。MMC では全員が同じ武器を習いそれを実践するため、同じような解答になるかと思ひます。そのため、初めのころは上位 2 割の順位でしたが、1 次試験のころは真ん中あたりの順位に落ちてしまい迷いや焦りが出ましたが、客観的に考え直し、型を崩さず余計なことに手を出さないよう努めました。

1 次試験後は過去問を 5 年分取り組みました。過去問に取り組む前に、H13 以降の MMC 模範解答を確認し、実際に使われているキーワードや文章句型から FP の充実化を図りました。その後は、平日にまとまった時間をとりにくかったため、朝は事例を読み文章校正を考えるとこまで、夜はその続きでマス目に書いてみることを、これらを 5 年分繰り返しました。古い過去問題は読みにくかったため解きませんでした。なお、事例 IV に関しては、H13 以降の過去問と MMC のドリル問題を、毎日できる範囲で、計算過程をノートに書きながら何度か解きました。

<5 回目の受験>

「持っている武器以上の余計なことはしなくていい」等の先生方のアドバイスもいただいておりますので、焦りや緊張を少なくし受験することができました。対策は一通りしていたつもりですが、実際は、時間はギリ、ムリやりにでも MMC 手法での打ち返し、空白での捨て問、といった結果でした。試験後に MMC 模範解答と比べて真っ青になりましたが、事例 I では設問 1 と 2 の解答を逆に書き、事例 II ではターゲットを 2 軸で書かず、さらに事例 IV では 1 問まるっと空白でした。感想としては、例年通りモヤモヤ感があるがどうにか埋められたといった状況に加え、今年は、MMC での因果やキーワードにより、かなりスカスカでシンプルな文章になってなあとといったところでした。今になって再現答案を見返すと、読み手にとっては、そのくらいのシンプルな文章の方が、ちょうど纏めて整理された文章に感じるのではと思っています。

<1 次試験>

1 次試験は 3 回受験しました。T 社テキストを読みその内容を FP (7 科目で 7 枚) にまとめ、あとは過去問を 10 年分解き FP をブラッシュアップしていく進め方です。なお、中小企業政策のみ T 社テキストと問題集を最新ののものに買い直し、逆に過去問はやりませんでした。1 次試験も同様、武器で解けるものだけ解き、それ以外は無視しました。心がけとして、設問を読まないなど、解く時間の短縮化を図りました。

<さいごに>

独学や他社では得られない、確実に勝てる武器が MMC にはあると思います。その武器も使い方も非常にシンプルですが、試験当日もそれらを疑わずに信じ、余計なことをせずに、いつも通りのシンプルな解答をすることが合格への近道だと考えます。以前、「与件は毎年違うが、聞いていることは結局数パターン、だから答えも同じになる」とどこかで聞いたことがありますが、まさにそのようなイメージです。

MMC で得られたことは日常でも役に立ち、今後の他資格でも活かすことができるものと考えております。MMC の皆様の喜びを祈願しております。ありがとうございました！